

高濱虚子生誕150年記念

「俳句とはどんなものか」

藤岡家住宅 令和6年10月1日(火)～12月20日(金)

藤岡家の明治～昭和の当主藤岡玉骨(本名 長和)は内務官僚であり、高濱虚子に師事し「ホトトギス」派俳人として活躍しました。高濱虚子生誕 150 年を記念し、虚子から玉骨へ贈った軸、短冊、色紙など直筆資料をはじめ所蔵する虚子関連資料を展示します。俳句のほか、著書『俳句とはどんなものか』(大正 3 年)・『俳句入門』(昭和 13 年)・『自叙伝 高濱虚子』(昭和 23 年)など俳句作法について語る著作には正岡子規や夏目漱石、河東碧梧桐らと歩んだ若き虚子の姿が生き生きと描かれています。この展示が、今もなお俳句という日本の文学を支え続けている「虚子」という大きな存在に触れて頂く機会になればと願っています。

高濱 虚子 (たかはま きよし)

明治 7 年 (1874) 2 月 22 日 伊予松山市長町新丁に生まれる。本名は清。父は松山藩士、池内庄四郎政忠。後信夫。母は山川氏。この年風早郡柳原村西ノ下に住居。

明治 14 年 (1881) 7 歳 一家は松山に帰る。

明治 15 年 (1882) 8 歳 祖母死す。祖母の家高濱の姓を名乗る。

明治 24 年 (1891) 17 歳 父没す。初めて正岡子規と文通す。虚子と号す。

明治 25 年 (1892) 18 歳 伊予尋常中学校卒業。京都第三高等中学校に入学。

明治 27 年 (1894) 20 歳 仙台第二高等学校に転校。10 月河東碧梧桐と共に学校を退いて子規の許に遊ぶ。

明治 28 年 (1895) 21 歳 子規、日清戦争に従軍。咯血。神戸病院に入る。虚子は看護し、子規を須磨保養病院に送り帰郷する。子規の後継者を委嘱されるが辞退。

明治 30 年 (1897) 23 歳 大島いとと結婚。

明治 31 年 (1898) 24 歳 萬朝報社に入社。長女、真砂子生まれる。

10 月『ホトトギス』2 巻 1 号を東京に移し主幹す。母没す。

明治 33 年 (1890) 26 歳 子規庵にて文章会(山会)。長男、年男生まれる。

明治 35 年 (1892) 28 歳 9 月 19 日、子規病没。

明治 36 年 (1893) 29 歳 「写生文集」出版。次女、立子生まれる。

明治 39 年 (1896) 32 歳 次男友次郎生まれる。

明治 40 年 (1897) 33 歳 『風流懺法』を『ホトトギス』に掲載。

明治 41 年 (1898) 34 歳 「鶏頭」「新写生文」「稿本虚子句集」「俳諧師」等を出版。国民新聞社入社。文芸部を創設。『ホトトギス』に雑詠選を始める。

明治 42 年 (1899) 35 歳 「三畳と四畳半」等執筆。三女、育子生まれる。

明治 43 年 (1890) 36 歳 鎌倉原の台に移住。国民新聞社退社。鉄道院嘱託。

大正 元年 (1912) 38 歳 四女、六生まれる。

大正 3 年 (1914) 40 歳 4 月四女、六没す。

大正 4 年 (1915) 41 歳 五女。靖子生まれる。

大正 8 年 (1919) 45 歳 六女、章子生まれる。

大正 12 年 (1923) 49 歳 ホトトギス発行所を丸ビルに移す。関東大震災。

昭和 2 年 (1927) 53 歳 次男、友次郎。フランス遊学。コンセルパトワールに入学。

昭和 9 年 (1934) 55 歳 「新歳時記」を三省堂より発行。

昭和 10 年 (1935) 61 歳 「俳句読本」発行。

昭和 11 年 (1936) 62 歳 章子を伴いフランス旅行。

昭和 12 年 (1937) 63 歳 藝術院会員。

昭和 19 年 (1944) 70 歳 信州小諸町に疎開。

昭和 22 年 (1947) 73 歳 足掛け 4 年振りに鎌倉に帰る。母の 50 年忌を叡山延暦寺に修す。

昭和 26 年 (1951) 77 歳 子規の 50 年忌を修す。

昭和 29 年 (1954) 80 歳 文化勲章拝受。

昭和 33 年 (1958) 84 歳 「虚子俳話」発行。

昭和 34 年 (1959) 85 歳 脳溢血のため、鎌倉市由比が浜の自宅で永眠。

平成 12 年 (2000) 3 月 28 日 小諸に高濱虚子記念館。4 月兵庫県芦屋市に虚子記念館。

お問合せは 藤岡家住宅管理法人 NPO 法人うちの館(やかた)

0747(22)4013 info@uchinono-yakata.com 〒637-0016 奈良県五條市近内町 526

月曜休館 月曜祝日のときは開館して翌日休館 9時～16時

高校生以上 300 円・小中学生 200 円 20 名以上 2 割引